

現代を 斬る

明治学院大学は、その教育理念として「Do for Others」（他者への貢献）を掲げている。

昨年、東日本大震災に際しては、このモットーを反映するかのようには、多くの学生ボランティアが被災地に赴いて「他者」のために働いた。また全国の多くの人々が同様の行動を起こした。このことから明らかのように、本学の標榜する理念は現代社会に生きており、また一大学のモットーにとどまらず普遍性を持つ思想でもある。

本学では、それを単に校是とするだけでなく、学内にボランティアセンターという組織も設けるなど大学全体としてその精神の具現化に努めている。自分のために行動するのではなく、他者のために行動するのは、尊いことである。このような大学に在籍することを

常々うれしく、そして誇りに思っている。では、なぜこれが心に響くモットーであるか、現代社会が必要とする思想なのだろうか。

このモットーを支える三つの理由

それには三つの理由がある、と筆者は考えている。

第一は、いうまでもなく本学がキリスト教による人格教育を基礎としており「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」と『新約聖書』（マタイによる福音書 七章一二節）にあるからだ。いわば宗教的、倫理的な非常に確固とした理由である。ただ、たいいていの説明は残念ながらここで終わる。しかし、さらに別の理由も二つあるのではないかと。

すなわち第二には、他人のために何かをしたり施したりすること（贈与の精神

“Do for Others”の現代性と普遍性

国際学部教授 岡部 光明

ないし利他主義）は、その人に本当の喜び、幸福感、ないし精神上的の充実感をもたらすことによる、と理解できることである。心理学の論文には、人間がこうした利他主義的な側面を持つことを主張するものがある。したがって、これは心理学的な理由といえよう。

そして第三の理由は、人間は基本的に利己主義的に行動すると従来前提される場合が多かったが、それ以外の行動動機やそれを制度化した組織が最近重視されているからである。主流派経済学においては従来、社会を市場および政府という二つの異質の組織で成り立つとみる二分法が基本前提とされてきた。しかし近年は、理論上もまた実際的にもNPO、NGO、コミュニティ、ソーシャルビジネスなど従来と異なる第三主体ないし第三領域といえる

社会領域の重要性が高まっている。それを支える理念がまさに「他者への貢献」なのである。つまり、それは先端的な社会思想を表すものでもある。

明学の学生と教員にとっての課題

「他者への貢献」を上記第二および第三の視点からみた場合の学問的研究は、今後発展させる余地が大きいと思う。そしてそれは本学教員に与えられたユニークな研究領域ではないだろうか。一方、学生諸君にとつては、その理念の実践を一層進めるとともに、本学がこのモットーを掲げる所以を深く理解してもらいたいと思う。明学を卒業すれば、会社員、公務員といった従来型の進路に加えて、これまでにない時代の先端を行く働き方が大きく開けているのだ。

上記議論の詳細はインターネット掲載論文2011-002号を参照されたい
http://gakkaifstc.keio.ac.jp/publication/dp_list2011.html